

環境への取り組み

環境を守るために私たちができることから始めましょう。

時代の変化とともに今、私たちと環境の良い関係が失われていく中で、環境問題そのものは次世代に大きな負債を負わせることになりかねません。そこで、本学では「生活環境改善活動の積極的な推進と、それを担いえる人材の育成」をスローガンとして掲げ、「美しい地球を子どもたちに手渡す」ことこそ私たちの使命として受け止め、環境に対してさまざまな活動に取り組んでいます。



本学は、全学園を挙げてISO14001の認証登録に向けて取り組んできました。そして、2000年12月25日に総合学園として世界で初めて認証の登録が認められました。



ISO14001

環境マネジメントシステムに関する国際規格ですが、環境保護にあたって自主的および継続的改善活動が実施されるための一つの指針となります。



環境マネジメントシステム

組織が環境への負荷軽減活動を行うに当たって、計画・実施・点検・見直しのPDCAサイクルを回し、その仕組みを通して継続的に改善活動を行うことを言います。



ISO14001 認証登録の意義

本学では、自然環境から恩恵をうけていると同時に、環境に働きかけている存在であるということを、次世代を担う子どもたちに考えてもらうために、学校としてISO14001認証登録に挑戦しました。総合学園が認証登録することは、画期的であると同時に、本学として大きな責任を感じることであります。

学校が環境問題に直接関係することは少ないかもしれませんが、子どもたちに環境に対する正しい判断や環境への価値観を伝えることが、環境に対してこれからの「学校教育」のできることだと考えます。

現在、積極的な環境教育の実践活動と環境保全への実践を2本の柱として、学内外への啓発活動もふくめ積極的な活動を展開しています。しかし、それは継続させることが必要です。一つひとつの活動を今までの教育活動に無理なく組み入れ継続的な質的向上を目指しています。

環境シンボルマーク

子どもたちが、この大自然の中で、思う存分に生きてこそ、心身共に健康な人間になれると考え、本学では「心に自然を」ということを大事にしています。これらの教育環境維持活動のシンボルとして「エコマーク」を制定しました。

玉川学園 環境方針

1. 基本理念

本学園は、全人教育を第一の教育信条とし、学問をはじめ、道徳、芸術、宗教、身体、生活という人間文化を調和的に豊かに形成することを目指しています。さらに教育にとっての自然環境の重要性を認め、自然の尊重も教育信条として掲げています。

その実践に向けて本学園は教育・研究機関としての学習環境・生活環境を常に整備し、環境教育を児童、生徒、学生及びその父母に行い、人類の活動が環境に与える影響を明確に捉えることを教育方針のひとつとします。これは学校のみならず家庭、社会、そして広くは国際社会のあらゆる場所が教育の場という意識を持ち、地球環境の維持及び向上に貢献する活動を推進するものです。

2. スローガン

生活環境改善活動の積極的な推進と、それを担いの人材の育成

3. 基本方針

- (1) 本学園の教育信条に則り、環境教育を通して地球環境への責任を自覚し、環境保全や資源保護活動に取り組みます。
- (2) 環境関連の法律、規制、協定、国際的環境指導原則の要求事項を遵守するとともに、自主基準を制定します。
- (3) 環境目的及び目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (4) 次の項目について優先的に活動し、環境維持及び向上に取り組みます。
 - ① 児童、生徒、学生への環境教育の実施。
 - ② 各家庭における環境教育の取り組みへの支援。
 - ③ 本学園、家庭、取引関係先を含めたCO₂排出量削減・省エネルギー活動の推進。
 - ④ 物品購入におけるグリーン調達の推進。

全教職員がこの環境方針を認識し、児童、生徒、学生に対しては周知させます。また、この環境方針は、広く本学園内外に公表します。

2000年2月10日制定
2008年6月10日改定
2010年6月9日改定

学校法人 玉川学園
理事長 小原芳明

環境を守るために私たちができること

(1) 節水を心がける、(2) ゴミの分別収集を徹底し、資源の再利用化を推進する、(3) 省エネルギー対策として、照明等の節電活動を積極的に行う、(4) 再生紙の積極的利用をする、(5) OA紙の両面使用およびOA紙の使用削減に努める、(6) エコ商品の利用を推進する、(7) 学園内美化活動（ゴミ拾い、ゴミの持ち帰り）への積極的な取り組み、(8) ゼロエミッション活動への挑戦、(9) 学園内外を問わず、環境ボランティア活動への積極的参加

ゴミの分別収集

校内のゴミはすべて分別収集しています。幼稚園児から大学生・教職員までの全員がゴミの分別を意識し、資源の有効活用について考えています。皆さんもゴミの分別収集に協力してください。